

厚生環境委員会・県外視察報告

1 調査日

令和5年8月7日（月）～令和5年8月9日（水）

2 出席委員等

澤崎豊 委員長、大井陽司 副委員長、光澤智樹 委員、種部恭子 委員、
井加田まり 委員、奥野詠子 委員、五十嵐務 委員
（その他、執行部が参加）

3 調査の概要

○令和5年8月7日（月）

（1）京都動物愛護センター

調査項目：府市協調による動物愛護事業の取組について

応 対 者：京都動物愛護センター所長ほか

内 容： 京都動物愛護センターは、「人と動物とが共生できる、うるおいのある豊かな社会」を実現するため、動物の愛護と適正な飼養についての関心と理解を深める拠点として、平成27年度に京都府と京都市が共同で開設し、運営している施設であり、動物愛護の普及啓発などに取り組まれている。

その設置経緯や施設概要、事業効果、整備費用などの説明を受け、施設内を見学した。



左：概要説明等



右：併設のドッグラン

(2) 新虎興産株式会社

調査項目：太陽光パネルのリサイクル新技術について

応 対 者：新虎興産 広報課

内 容： 太陽光パネルについては、昨今、急速に普及が進んでおり、いずれ大量廃棄が問題化することが考えられる。

新虎興産(株)は、太陽光パネルのリサイクルを行うための新工法としてウォータージェットで電池セルとカバーガラスを分離させる新技術を確立しており、技術の概要や効果等の説明を受けた。



概要説明等

○令和5年8月8日（火）

(1) 豊中市発達支援あゆみ

調査項目：児童発達支援事業について

応 対 者：豊中市こども未来部はぐくみセンターおやこ保険課

社会福祉法人北摂杉の子会 理事長ほか

内 容： 豊中市発達支援あゆみは、単独通所「あゆみ」、個別療育「カラフル」、障害児一時預かり「りーふ」の3事業を公民連携して実施している。

各種事業の概要の説明を受けた後に、実際に施設内を見学した。



←概要説明等

(施設内は写真撮影不可)

(2) Immersive Museum OSAKA

調査項目：没入体験型ミュージアムの体験について

内 容： Immersive Museum OSAKA は、世界的なトレンドになっている注目の没入体験型ミュージアムである。2022年に東京で約20万人を動員し、最新テクノロジーによってモネなど「印象派」の芸術作品の世界を蘇らせた企画展であり、実際に体験し、その展示内容を調査した。



左右：企画展内部の様子

(3) 兵庫県立清水が丘学園

調査項目：児童心理治療施設について

応 対 者：清水が丘学園長ほか

内 容： 清水が丘学園は、全国的にも数少ない子どもの心理治療施設で、児童精神医学、心理臨床等の各専門スタッフが連携し、不登校や家族関係の問題などの悩みを抱えた子どもや親への総合的な援助を行っているほか、家族療法事業や児童心理臨床セミナーを開催するなど、地域支援事業も積極的に行っている。

その設置経緯や施設概要、事業効果、整備費用などの説明を受け、施設内を見学した。



←概要説明等
(施設内は写真撮影不可)

○令和5年8月9日（水）

（1）大阪府議会

調査項目：大阪ブルー・オーシャン・ビジョン実行計画について

応 対 者：大阪府脱炭素・エネルギー政策課

循環型社会推進室 資源循環課

環境管理室 環境保全課

内 容： G20 大阪サミットにおいて、「2050 年までに海洋プラスチックごみによる新たな汚染ゼロ」をめざす「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が共有され、同ビジョンの目標達成に向け、大阪府・大阪市が共同でプラスチックごみによる河川や海洋汚染の防止に率先して取り組むため、数値目標や具体的な施策、推進体制等を含めた「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画を2021年3月に策定した。

大阪府では、住民、事業者、NPO等の団体、周辺自治体など幅広い関係者とのパートナーシップのもと、海洋プラスチックごみの削減のための様々な施策を展開することにより、経済・社会・環境の三側面の統合的向上に取り組んでいる。

当日は、各担当課から、各種事業の概要説明を受けた。



概要説明等